



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2012.8

No.340

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



平成24年度(第28回)総会を開催しました

平成24年6月24日(日)午後1時30分から、さいたま市民会館うらわで、総会を開催しました。

●記念講演



山部直喜の司会で定刻に開始。今年の記念講演は公益財団法人日本野鳥の会普及室箱田敦只氏(写真左)の「トコロジストのすすめ」と、同林山雅子氏(写真右)の「ヒナを拾わないでキャンペーンの絵本、紙芝居が完成しました」。

●表彰式など



藤掛保司代表の開会の挨拶で総会が始まり、平成24年県内鳥見ランキングの探鳥会参加回数部の部1位、内田克二氏(写真左)、観察鳥種数の部同数1位の石塚泰氏(写真中)、石塚敬二郎氏(写真右)に表彰状が渡されました。

また、26年間にわたり当会幹事として活躍、事業部長・埼玉県鳥獣保護員もつとめ今回退任となった福井恒人氏に対する表彰状を、藤掛代表が読み上げました。

浅見徹が議長に、書記に小林みどり、議事録署名人に大坂幸男・田邊八州雄が選出されて、議事に入りました。

●平成23年度事業報告・収支決算

海老原美夫事務局長が、平成23年度事業について報告しました。主な内容は次の通り。

【総務・事務局関係】

残念ながら23年度も会員数が減少した。減少率は3.8%。日本野鳥の会連携団体全国大会(川崎市)、関東ブロック協議会(神奈川支部担当、葉山町)などに出席した。

【保護活動関係】

カワウ問題協議会・見沼田んぼネットワークなどに参加した。日本野鳥の会栃木など7団体が環境大臣などに宛て提出した、渡良瀬遊水地ラムサール条約登録に尽力を願う要望書に、賛同団体として名前を連ねた。「第19回野鳥密猟問題シンポジウム in おおさか」に、橋口長和を派遣した。

【普及活動関係】

普及部(部長:橋口長和)が担当した探鳥会は、計画は119回、雨天等による中止13回、実施106回(=1ヵ月平均8.8回)、合計参加者数3,944人(=1回平均37.2人)に及んだ。

リーダー研修会、年末講演会を開催した。

普及部以外の活動として、公民館関係など10件の普及活動をした。

【調査研究関係】

研究部(部長:小荷田行男)は、カモ・ハクチョウ類、シギ・チドリ類調査などを継続した。関東ブロック支部など協力のシラコバト調査結果を『Strix vol. 27』に発表した。

記録委員会(委員長:小林みどり)は、13件の事例について検討し、結果を『しらこばと』誌上で発表した。

【編集活動関係】

編集部(部長:山部直喜)は、会誌『しらこばと』を年12回、合計21,700部発行した。

【事業活動関係】

会員サービスとしての販売活動を継続した。

事業報告の詳しい内容は、当会ホームページに全文掲載していますので、ご覧ください。

平成22年度収支決算は右表の通りです。石川敏男・楠見邦博両監事が監査結果を報告しました。

平成23年度事業報告と収支決算は、拍手で承認されました。

●平成 24 年度事業計画・収支予算

平成 24 年度事業計画案と平成 24 年度予算案は、通常の事業を継続することを基本としたものであることが説明され、一括して拍手で承認されました。

●平成 24 年度役員



前年度役員のうち福井恒人氏が退任、そのほかの 40 名を再任、相原修一(写真左)、佐野和宏(写真右)を新任として推薦する案が承認されました。

総会議事を一旦中止して平成 24 年度役員による最初の役員会を同じ場所で開催、代表・副代表・監事を選出しました。長年監事をつとめた石川敏男は交代を希望し、長野誠治に代わりました。

平成 24 年度の役員は次の 42 名です。

【代表】 藤掛保司(川越市)

【副代表】 海老原美夫(さいたま市)

【幹事】 相原修一(鴻巣市) 青木正俊(さいたま市) 浅見徹(さいたま市) 新井巖(深谷市) 石井智(鴻巣市) 石川敏男(春日部市) 石光章(所沢市) 伊藤芳晴(川口市) 井上幹男(長瀨町) 入山博(春日部市) 内田孝男(古河市) 榎本秀和(鴻巣市) 大坂幸男(上尾市) 倉林宗太郎(さいたま市) 小池一男(寄居町) 小荷田行男(さいたま市) 小林みどり(さいたま市) 佐久間博文(川越市) 佐野和宏(越谷市) 杉本秀樹(習志野市) 須崎聡(川口市) 田邊八州雄(越谷市) 玉井正晴(蓮田市) 千島康幸(小川町) 手塚正義(川口市) 内藤義雄(鴻巣市) 中里裕一(加須市) 長嶋宏之(蓮田市) 中島康夫(蓮田市) 中村豊己(東松山市)

橋口長和(春日部市) 長谷部謙二(川越市) 菱沼一充(白岡町) 持丸順彰(志木市) 森本國夫(熊谷市) 山口芳邦(新座市) 山部直喜(三郷市) 吉原俊雄(北本市)

【監事】 楠見邦博(さいたま市) 長野誠治(さいたま市)

平成23年度決算・24年度予算

収入の部

	項目	23年度決算	24年度予算
一般会計	期首繰越金	2,202,941	2,166,225
	会費	3,229,364	3,000,000
	寄付金	13,706	10,000
	探鳥会参加費	249,443	250,000
	雑収入	8,284	10,000
	仮払金清算	90,217	0
	補助金	200,000	200,000
	一般会計合計	5,993,955	5,636,225
事業部会計	期首繰越金	2,264,608	2,420,843
	運営準備積立金	5,000,000	5,000,000
	事業部売上金	575,971	700,000
	事業部雑収入	1,420	10,000
	事業部会計合計	7,841,999	8,130,843
総合計		13,835,954	13,767,068

支出の部

	項目	23年度決算	24年度予算
一般会計	什器備品費	3,781	50,000
	消耗品費	11,324	20,000
	会報印刷費	1,204,770	1,300,000
	会報発送料	897,180	900,000
	印刷コピー代	63,355	200,000
	通信費	111,982	120,000
	雑費	99,710	120,000
	家賃	984,000	984,000
	水道光熱費	54,059	60,000
	総務部費用	129,026	170,000
	普及部費用	157,941	200,000
	編集部費用	24,100	30,000
	研究部費用	18,543	10,000
	予備費	0	300,000
	仮払金	67,959	0
	期末繰越金	2,166,225	1,172,225
	一般会計合計	5,993,955	5,636,225
事業部会計	事業部仕入れ金	418,231	600,000
	雑費	2,925	5,000
	運営準備積立金	5,000,000	5,000,000
	期末繰越金	2,420,843	2,525,843
	事業部会計合計	7,841,999	8,130,843
総合計		13,835,954	13,767,068

2012年冬 カモ科調査

日本野鳥の会埼玉研究部

2011/2012年冬は厳冬が続きました。本調査が実施された2012年1月14日から15日は好天が続きました。

ハクチョウはやや持ち直したが、オシドリとトモエガモは減少しました。

県内37カ所、延べ50名のご協力に深謝します。(小荷田行男)

調査の結果、総数は例年より約25%減、コ

調査地	入間川	越辺川	荒川				元荒川	古利根川	利根川	新河岸川	柳瀬川	芝川	加田屋川	水東縁	見沼代用	見沼代用			
	富士見橋、新	八幡団地前	荒川鉄橋、戸田橋	道満(荒川第一調節池)	南畑排水機場、びん沼川	玉淀河原	玉淀ダム	城北大橋、水管橋	寿橋、堂面	坂東大橋下	川崎橋、田島橋	二新河岸橋	川崎橋、第一橋	富士見橋、栄橋	松山橋、八丁堤	八丁堤、荒川	加田屋橋、七里公園橋	七里公園橋、七里山口橋	旭橋、附島
地域	狭山市	川島町	戸田市	戸田市	さいたま市富士見市	寄居町	寄居町	さいたま市松伏町	本庄市	川越市	ふじみ野市	志木市	富士見市	さいたま市	川口市	さいたま市	さいたま市	さいたま市	
コハクチョウ	1	153				25													
オシドリ						13									2				
マガモ	13			3	1	13	13	5	44	9	47	4	19	4	4	4	2		1
カルガモ	19	66	9	24	102	11	3	52	2	124	29	42	64	49	69	171			165
コガモ	42	115		3	36	43		156	14	48	56	17	48	190	68	44			10
トモエガモ																			
シシガモ				17					23		3		14						
オカシガモ				2					11		1		32						
ヒドリガモ				2	47			30	92		321	81	54	45	158				
アメリカヒドリ			2																
オナカガモ		70		1		9	11		4				4	5	10	6		1	
ハンビロガモ				16	25			1						12	1	1			
ホンハジロ								25						1	5				
キンクワハジロ				4	1			23			1			8	13	1			
スズガモ																			
ホオシロガモ				2															
ソコアイサ				1						4									
カコアイサ										3									
カモsp																			
合計	75	404	11	75	212	101	88	240	116	139	512	177	152	392	307	125	174	176	
種類	4	4	2	11	6	5	6	5	4	8	6	5	3	11	7	6	3	3	

狭山湖	川公園	小畔川	武蔵丘陵	百穴湖	八丁湖	大沼公園	芳沼	さきたま	行田浄水	白幡沼	見沼自然	大宮公園	大宮第3	深作川	大宮調整	渡良瀬	宝蔵寺沼	赤堀遊水	合計
湖全部	池全部	池全部	園内の池全	大沼	池全部	大沼	沼全部	古墳の池全	池全部	沼全部	池全部	ポート池他	池全部	池全部	池全部	貯水池	沼全部	池全部	
所沢市	川越市	川越市	滑川町	吉見町	吉見町	熊谷市	深谷市	行田市	行田市	さいたま市	さいたま市	さいたま市	さいたま市	さいたま市	越谷市	北川辺町	羽生市	桶川市	
																			179
308	2		181	115	203	74	102	235						8	21	389		232	2,053
58	92	8	11	29	24	44	98	2		25			25	2	4	216	151	33	1,827
154	48	58	103	66	3	307	54	57		7			55	12	4		116	116	2,050
						20								1		8	10	6	74
	71	18			16	1		43			15	1	3	23		27	1	60	94
									17	2	106	28					7	38	1,091
		15	3		31	25	5		2	5	4	4		3		3	5		2
		6				5			4		3	3		8		9			397
	4	1		12	1	31			7	4	3	3		3	22		5		89
	3			10		86		2			19			6					104
																117			190
																13			2
																113			125
																2,114			16
527	217	105	299	232	232	86	593	216	361	11	153	55	94	49	65	2,890	290	485	2,115
5	6	5	5	5	5	3	9	4	6	3	4	5	4	6	6	8	6	6	18

初めての戸隠

井内寛裕(朝霞市)

今回の探鳥会(5月26,27日)は、私にとって初めての戸隠だった。

1日目 森林植物園到着直後からニューナイスズメ、ノジコ、キバシリが登場する。ノジコは腹の黄色もそうだが、頭から背にかけての黄緑色がとてもきれいだった。つづいてコサメビタキ、アカゲラなど。

鏡池で昼食、池にはオシドリがいた。

随神門の方へ歩くと、ツツドリの声、キバタキ、サンショウクイなどを観察。ゴジュウカラもいた。キクイタダキ、クロツグミを見た後、宿へ向かう。このクロツグミは全く動かず、ゆっくり観察することができた。

2日目 4時30分に宿を出発し、森林植物園へ向かう。希望者のみの参加だったが、30名中28名が参加した。アオジやキバタキ、アカハラなどの声を聴きながら進むと、ノジコとミソサザイが登場。さらに進むとコルリの声があるのでしばらく探す。藪の中ではなく地面から数メートルの枝にいるところを発見し、その後ゆっくり姿と声を楽しむことがで



きた(写真)。背の瑠璃色に加え喉から腹の白が綺麗で、一度場所がわかると肉眼でも木々の中に白い点を見つけることができた。アカショウビンを探しに向かおうとしたが、今日は鳴いていないとのことだった。

一度宿に戻り朝食をとった後、再び森林植物園へ。昨日カメラマンがはりついていたオオアカゲラのいる所では雌雄ともに見られ、餌をくわえている様子が観察された。オオルリは高いところにいる、姿はほとんど見えなかった。

キャンプ場で昼食を食べ、周辺で鳥を探す。アカゲラとコサメビタキの巣が見えた。カッ

コウの声を聴きながら鳥合わせをし、最後にイワツバメが飛んだ。

森林植物園内は鳥影が濃く、始終鳥たちの姿や声を楽しめた。またいくつかの種類の巣を遠くからかいま見ることができ、小鳥たちの大切な繁殖地のひとつなのと感じた。アカショウビンこそ出なかったものの、サンショウクイやコルリをじっくり見ることができてとても楽しい2日間となった。

野鳥記録委員会の情報

日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

●アカオネツタイチョウ

分類 ペリカン目ネツタイチョウ科ネツタイチョウ属

英名 Red-tailed Tropicbird

学名 *Phaethon rubricauda*

2012年6月26日付け埼玉新聞、読売新聞などで、同月20日さいたま市内の路上でうずくまっていたアカオネツタイチョウ幼鳥1羽が保護されたと報道されました。

その記事では、1907年5月川越市、1985年7月志木市に続く県内3例目とされていますが、当会の記録によると、2004年10月に妻沼町(現・熊谷市)で保護された例もあり、今回は4例目。いずれも台風によって運ばれてきたようです。太平洋西部・中部とインド洋の海岸の崖などで繁殖しますが、陸地に飛来することは極めて稀な鳥です。環境省レッドデータブック絶滅危惧I B類種。日米渡り鳥条約指定種。

●訂正2件

前月号4ページ、ハイイロヒレアシギ過去の記録に、2009年4月18日行田市利根大堰上流の事例(本誌2009年7月第303号)が抜けていました。

前月号同ページ、サルハマシギ過去の記録中、「2001年11月3日川本町(現・深谷市)明戸堰上流」と「2001年11月11日川口市差間」は、ともに「2000年」の誤記でした。



野鳥情報

さいたま市桜区塚本 ◇4月2日午前11時過ぎ、コクマルガラス黒色型2羽、オオタカ、チョウゲンボウ、クイナ、ツバメ、コチドリなど。コクマルガラスは地面で寄り添ってじっとして、近づいても逃げなかった(本多己秀・久文字)。

春日部市内牧 ◇4月20日午後3時30分頃、ハヤブサ1羽。田んぼにいたムクドリやカルガモが一斉に飛び立ったので、空を見るとハヤブサが速い速度で東の方向に飛んで行った(菊川和男)。

さいたま市北区日進町1丁目 ◇4月24日午前9時前、エゾムシクイ1羽。雑木林で鳴いていた(森本國夫)。

さいたま市桜区塚本 ◇4月25日、ムナグロ15羽、ミヤマガラス、コクマルガラス、キジ、コチドリなど(本多己秀・久文字)。

さいたま市見沼区猿花キャンプ場周辺 ◇4月10日～5月11日、センダイムシクイ1～2羽のさえずりや姿を確認。4月13日、アオジ1羽、さえずる(終認)。シメ4～5羽(終認)。4月18日、ヒヨドリ50羽土が通過。4月20日、ツグミ1羽の声(終認)。4月24日～5月11日、キビタキ1～3羽のさえずりや姿を確認。4月25日、アカハラ2羽、シロハラ5羽(終認)。4月28日、アカハラ10羽土(終認)。森の中はアカハラのさえずり、ぐぜり、地鳴きでいっぱいだった。エゾムシクイ1羽、さえずり。5月11日、エゾムシクイ1羽、さえずり(小林みどり)。

さいたま市緑区大門 ◇4月26日午前8時、ヒヨドリ50羽土の群れが北へ飛んで行った(藤原寛治)。

深谷市本田白鳥飛来地 ◇4月28日、コハクチョウ14羽。翌日付けの新聞で、『残っていた14羽が27日夜、北へ向けて飛び立った』と報道されたが、まだ旅立ちではなかったようだ。マガモ、カルガモ、コガモ、キンクロハジロ、オジロトウネン1羽、タカブシギ1羽、クサシギ1羽、イソシギ5羽一、

コチドリ3羽、イカルチドリ5羽一、オオタカ若鳥1羽。深谷市及び同観光協会は本年3月をもって、当地の管理を終了したとのこと。5月1日、コハクチョウ3羽、前記と同じカモ類4種、オジロトウネン2羽、クサシギ1羽、イソシギ1羽、コチドリ5羽土、イカルチドリ1羽、キビタキ1羽、オオタカ成鳥1羽、ミサゴ1羽(鈴木敬)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇4月29日午前6時～7時30分、エゾムシクイのさえずりが響きわたる中、キビタキ1羽、センダイムシクイ、エナガ、シジュウカラ、アオジ、コゲラ、キセキレイ。ヒヨドリ20羽土の群れが通過。元荒川のアシ原では、オオヨシキリが鳴いていた(藤原寛治)。

熊谷市荒川大橋 ◇4月30日午前9時25分、コアジサシ1羽。上流に向かって飛んでいたが、近年はこのあたりで見かけることも少なくなった(森本國夫)。

さいたま市見沼区芝川第7調節池 ◇4月30日、オオヨシキリさえずる。今季初認(小林みどり)。

さいたま市北区大宮第二公園 ◇4月30日、コアジサシ2羽、池の上空を飛び回る。今季初認(小林みどり)。

行田市須加下中条 ◇5月1日午後、利根大堰上流でヒレアシシギ類冬羽1羽。嘴が比較的太めで、体上面が一様な灰色に見えることからハイイロヒレアシシギと思われるが、天気急変のため、より近くで観察を続けることができなかった。ちなみに当地では3年ほど前、同種3羽を観察している(鈴木敬)。

北本自然観察公園 ◇5月7日午前6時、エドヒガンザクラ付近でセンダイムシクイ、エゾムシクイ、キビタキのさえずりを確認。いずれも姿は確認できず(栗原喜芳)。

さいたま市見沼区染谷 ◇5月8日、センダイムシクイさえずる(小林みどり)。

さいたま市見沼区加田屋 ◇5月8日、オオヨシキリ、セッカさえずる(小林みどり)。

さいたま市緑区見沼自然公園 ◇5月8日、カイツブリ4羽十、コガモ1ペア、バンの声、オオバン1羽(小林みどり)。

さいたま市岩槻区岩槻城址公園 ◇5月9日
午後3時頃、ツミ2羽が盛んに鳴き交わし
ていた(菊川和男)。

鴻巣市栄町 ◇5月10日午前5時45分頃、エ
ゾムシクイがさかんにさえずる。当地初認
(榎本秀和)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇5月17日、ムクド
リのつがいがかべつ畑でアオムシを口い
っぱいに頬張って同じ方向に飛んで行った。
5月24日、シジュウカラの巣立ち雛3羽が
親鳥の後を追って枝移りをしていた。キャ
ベツ畑にいるアオムシを5~6匹くわえた
ムクドリが1羽は西へ、1羽は東に飛んで
行った。まだ畑には2羽のムクドリが残っ
ていてアオムシを探していた。どこかで雛
を育てているようだ。ハシブトガラスの巣
立ち雛が4羽電柱にいて、騒がしく鳴いて
いた。ムクドリ4羽が芝生で採餌していた。
そこにハシブトガラスが突然襲いかかり、
中の1羽をくわえて飛び去った。残ったム
クドリが激しく鳴きながら20mほど追いか
けたが、諦めた様だ。ハシブトガラスは看
板の上でぐったりしたムクドリを食べ始め
た。一瞬の出来事の後、また芝生には静け
さが戻り、東沼のアシ原でオオヨシキリが
騒がしく鳴いていた(長嶋宏之)。

さいたま市岩槻区馬込 ◇5月19日午後3時
30分頃、アカエリヒレアシシギ♀1羽、ム
ナグロを探していて出会う。この時、ムナ
グロ8羽、キアシシギ4羽も確認(菊川和
男)。

羽生市羽生水郷公園 ◇5月26日、コアジサ
シが1つがい、営巣していた。抱卵してい
るようだ。その傍らをコチドリが2羽、忙
しなく歩き回っていた。カワラヒワが2羽
電線で、ホオジロが桜の梢で、オオヨシキ
リがアシ原でさえずっていた。その他に沼
で夏羽のカイツブリ、アオサギ、芝生でヒ
バリ、ハクセキレイなど(長嶋宏之)。

寄居町玉淀湖 ◇5月27日、オシドリ♂1羽
が残っていた。ゴイサギ成鳥2羽。キセキ
レイ幼鳥1羽がダム設備小屋の中を飛び
回っていた(鈴木敬)。

坂戸市西坂戸 ◇5月29日午前6時40分、自



パン(倉崎哲郎)

宅庭で草取り中にホトトギスの鳴き声を聞
く。今季初。昨年は5月24日だった。6月
1日の夜中に目覚めて行ったトイレの中で
ホトトギスの鳴き声を聞く。時計を見ると、
午前3時35分(増尾隆)。

鴻巣市大間一丁目 ◇5月31日午後11時50分
過ぎ、ホトトギスが3声ばかり鳴きながら、
寝静まった夜空を通過していった。今季初
認(榎本みち子)。

蓮田市笹山 ◇6月7日午前10時頃、オオタ
カ若鳥2羽。互いに鳴き交わしているよう
に聞こえた。2羽で飛び出してきて、直ぐ
また林の中に入って行くのを2回観察した
(菊川和男)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇6月11日、草を刈
った後の芝生でムクドリ30羽+が採餌。自
力で餌を捕っている幼鳥や、親に餌をねだ
っている巣立ち後間もない幼鳥がいた。成
鳥：幼鳥=5：27。電線にツバメの巣立ち
雛が5羽、親から餌をもらっていた。20分
間に、餌をもらっていたのはその中の同じ
2羽だった。ハクセキレイの巣立ち後間も
ない幼鳥が畑で採餌(長嶋宏之)。

越谷市七佐町8丁目 ◇6月13日午前6時、
シラコバトの鳴き声。姿も確認する。4~
5日前も鳴いていたが、姿を確認できな
かった。今回は近くだったので確認できた。
久しぶりの確認。越谷市内での観察が難し
くなった(小菅靖)。

表紙の写真

スズメ目セキレイ科ハクセキレイ属
キセキレイ

奥日光の湯川で出会った夏羽のキセキレイ
です。

新井 巖(深谷市)



行事案内



ハマシギ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。遠慮なく見て、楽しみましょう。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：8月5日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR 高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:33 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、浅見、岡安、大坂、内藤、立岩、永野、山野、飛田、吉原(早)、相原(修)、相原(友)、関口、長谷川

見どころ：この季節、色々な鳥を期待するのは無理です。暑さを避けて、無理をしないで、木陰伝いに移動します。黒などの暗色系の帽子・衣服は、スズメバチの攻撃対象になりますので、避けてください。昼食前に解散ですが、近辺に食事処もあります。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：8月12日(日)

集合：**午前8時20分**、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷8:00発、または寄居7:40発に乗車。

担当：榎本(秀)、森本、千島、新井(巖)、倉崎、栗原、飛田、鶴飼、岡田

見どころ：**集合時間を1時間ちょっと早くしました。**あまり暑くならないうちに、真夏の野鳥のくらしを少しだけ覗いてみましょう。猛暑に備え、飲料水の携行と、帽子その他、十分な熱中症予防対策をお忘れなく。解散も早めになります。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：8月18日(土)

集合：**午後1時**、JR武蔵野線南船橋駅改札口付近。

交通：JR 武蔵野線武蔵浦和 12:01→南浦和 12:04→南船橋 12:54 頃着。

担当：杉本、野村(修)、和田

見どころ：**潮回りの都合により、午後の開催です。ご注意ください。**繁殖地から南へ帰る途中のシギ・チドリたちを観察します。

暑さ対策を十分に！ 午後4時頃、現地解散の予定です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：8月18日(土) 午後3時～4時ころ

会場：会事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：8月19日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、青木、新部、渡辺、小菅、若林、赤堀、増田、須崎、船木、畠山、柴野、倉林、宇野澤

見どころ：夏休みもそろそろと終わる時期の探鳥会、例年親子連れの参加者が来られます。夏休みの宿題は「鳥」。小さな鳥博士

と一緒に、見沼たんぼの鳥は暑さの中でどうしているかと、観察にお出掛けください。

千葉県・ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

期日：8月26日(日)

集合：午前9時30分、JR総武線船橋駅改札口付近。集合後京成バス9:40発船橋海浜公園行きに乗車で、終点下車。

交通：JR武蔵野線南浦和8:30→西船橋にて総武線乗換え。

担当：佐久間、菱沼(一)、玉井、杉本、高橋(優)、和田

見どころ：昨年は東日本大震災のために、探鳥会が中止となりましたが、シギやチドリなどの鳥たちは、今年も変わることなく三番瀬に渡ってきています。埼玉でなかなか見ることができない鳥たちもいます。紫外線と残暑対策はしっかりと。

リーダー研修会(要予約)

期日：9月2日(日) 午前9時30分～午後5時(受付開始午前9時)

会場：北本市・埼玉県自然学習センター

交通：JR高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:33 発で「自然観察公園前」下車。

申し込み：初めてリーダー研修会に参加される方は往復はがきに、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、推薦者を明記して 橋口長和(〒)

へ。8月25日まで。役員・リーダーの方も電話またはメールで、必ず事前に参加申し込みをお願いします。

参加資格：探鳥会や支部活動にリーダーとして協力できる支部会員で、役員・リーダー1名以上から推薦があった方。

ご案内：本部から安西さんをお招きし、講話“楽しい探鳥会・盛り上げの極意”(仮題)と、その後のディスカッションを中心にプログラムを組みます。ベテランの方々も、奮ってご参加ください。

その他：筆記用具を持参してください。昼食は弁当を用意します。

山階鳥類研究所から 第17回山階芳麿賞贈呈式・受賞記念講演 と

財団設立70周年記念シンポジウム 「鳥の魅力を追う人びと」のご案内

日時：2012年9月23日(日) 開場12:00

会場：有楽町朝日ホール(〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン11階)

内容：

●第17回山階芳麿賞贈呈式

13:00～13:55

受賞者：日本イヌワシ研究会

受賞記念講演「日本イヌワシ研究会の活動とイヌワシの現状(仮)」

日本イヌワシ研究会会長 小澤俊樹氏

●記念シンポジウム「鳥の魅力を追う人びと」

14:10～16:00

山階鳥類研究所内外の研究者4名により、鳥類の保全、標本研究、家禽研究、文化人類学的研究の各分野の話題提供をしてもらいます。

参加費：300円

申込み方法：往復ハガキ(1通2名様まで)に「参加希望」・参加者全員の住所(郵便番号)・氏名・返信用の宛先を明記のうえ下記へお申し込みください。

申込み締切：9月10日(月) 必着

定員：500名 応募多数の場合は抽選になります。

申込み・問い合わせ：〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115

(公財)山階鳥類研究所「山階賞」係

電話：04-7182-1101 FAX：04-7182-1106

E-mail: koho@yamashina.or.jp (担当：広報担当)

※メールでのお申し込みは受け付けておりません。

※山階鳥類研究所のウェブサイト(イベント情報)もご覧ください。

<http://www.yamashina.or.jp/hp/event/event.html>



行事報告

2011年9月25日(日) タカの渡り調査

ボランティア：24名+α

新井浩、新井良子、江津昭治、榎本清一、加藤重夫、小出博、小貫正徳、小松裕子、佐久間博文、杉原みつ江、鈴木秀治、高橋、中村弘、長岡、野口修、林洋子、比企裕、松井昭吾、水谷、矢野翔一、横山俊夫、和田明広、和田知子、和田朋之 ◇天覧山展望台で行われた。(参加者は、名簿で名前が分かった方のみ掲載。判読が難しい署名もあったので、誤読していたらご容赦ください。)

1月7日(土) 松伏町 まつぶし緑の丘公園

参加：31名 天気：快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ キンクロハジロ オオタカ チョウゲンボウ オオバン イカルチドリ イソシギ タシギ キジバト ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) (番外：ドバト) 工事の影響で池の水が抜かれて、残った水も結氷したため、カモの数が極端に少なく、楽しみにしていたミコアイサの姿も見えない。しかし、周辺の屋敷林では冬鳥が姿を現し楽しませてくれた。シラコバトは最後まで姿を見せてくれなかった。ここにはもういなくなったのかもしれない。(橋口長和)

1月28~29日(土~日) 千葉県 銚子港

参加：31名 天気：快晴

アビ オオハム シロエリオオハム カイツブリ ハジロカイツブリ ミミカイツブリ アカエリカイツブリ カンムリカイツブリ ウミウ ヒメウ カワウ ダイサギ コサギ クロサギ アオサギ クロツラヘラサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ クロガモ シノリガモ ミサゴ トビ ノスリ ハヤブサ チョウゲ

ンボウ オオバン シロチドリ ハマシギ ミユビシギ イソシギ ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ シロカモメ カモメ ウミネコ ミツユビカモメ ワシカモメ ウトウ キジバト コゲラ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ジョウビタキ イソヒヨドリ アカハラ メジロ ホオジロ アオジ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (64種) (番外：ドバト) 2年ごとに開催している銚子探鳥会です。今回は、2011年の大津波で被害のあった茨城県銚田市大竹海岸のアビ、オオハムをかわきりに、波崎漁港、銚子漁港と廻り、埼玉では見られない海鳥を堪能した2日間であった。(橋口長和)

3月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加：26名 天気：曇

カイツブリ カワウ アオサギ トビ ハイタカ ノスリ コジュケイ イカルチドリ セグロカモメ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) (番外：ガビチョウ) 東日本大震災1周年の日。犠牲になられた方々に黙祷を捧げて探鳥会を開始した。土手上がるとすぐにジョウビタキ、コゲラ、カワラヒワ、ツグミ、アオジ、ムクドリ、シメが見られ、上々のスタートとなった。ゴルフ場の裏手に入ると上空にトビとハイタカが現れ、遠くの木に止まったノスリも見られた。期待のミヤマホオジロは2人しか見られず残念だったが、ベニマシコは全員で観察できた。上手になったウグイスの歌声を聞きながら進むとアカゲラが登場し、広瀬河原ではカワセミも見られて、鳥が少ない今季としては満足の36種だった。(新井 巖)

3月11日(日) さいたま市 見沼自然公園

参加：33名 天気：曇時々晴

カワウ アオサギ マガモ カルガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ オオタカ コジュケイ バン オオバン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウ

グイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 風は冷たいけれど、日差しはもう春。野鳥たちも春仕度。轉りを聞けた(練習中も含めて)のは、ヒバリ、セグロセキレイ、ウグイス、ホオジロそしてカワラヒワ。コゲラはせっせと枯れ木に穴掘り。めずらしく公園の池に来たヨシガモ2羽も、雄雌仲良く寄り添って。再生の季節到来。(浅見 徹)

3月11日(日) 加須市 加須はなさき公園

参加：23名 天気：曇

カイツブリ カワウ オシドリ マガモ カルガモ ヒドリガモ トビ ハイタカ ノスリ バン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) (番外：ドバト) 探鳥会が始まるやすぐにイチョウの枝のツグミ、電線のモズが目に入った。ムクドリやスズメ、ヒヨドリも群れて飛び回っている。芝生ではハクセキレイ3羽が採餌。その傍らの樹冠でカワラヒワと数羽のメジロが忙しかった。誰かが空を舞っているハイタカを見つけた。植物園では水路に張り出した小枝にカワセミが、岸辺にオシドリのみがいて盛り上がった。その後、ホオジロがアシを登り、ノスリが高く舞った。ヒバリも轉っている。終了間際、杭の上のジョウビタキとモズを楽しんだ。今回はこの探鳥会で初認のハイタカとオシドリが楽しめ、和気あいあいの内に公園との共催探鳥会を終了した。(長嶋宏之)

3月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：12名

相原修一、新井浩、江浪功、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、松村禎夫、吉原早苗、吉原俊雄

3月18日(日) さいたま市 三室地区

参加：60名 天気：曇

カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガモ コジュケイ キジ バン オオバン イソシギ セグロカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキ

レイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) (番外：ドバト) 今回のテーマは「小さな春を探して」で、雨上がりの見沼たんぼを楽しんだ。ヒバリが飛び立ち、キジが鳴き、コジュケイも元気に歌った。冬鳥に別れを告げる早春の探鳥会になった。(楠見邦博)

3月18日(日) 松伏町 松伏記念公園

参加：26名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ ハシビロガモ ハヤブサ チョウゲンボウ バン オオバン キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ ホオアカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) (番外：ドバト) 公園の池では水鳥が近くで見られ、特にカワセミが目目の前のアシに止まってワンマンショー。農耕地に出るとすぐにハヤブサが狩のシーンを見せてくれたが失敗。電柱に止まったところをよく見ると幼鳥だった。中川にはまだカモが4種類残り、池で見たハシビロガモを入れると5種類に。公園に戻るとアカハラが最後に出てくれて35種。夏鳥には会えなかったが、参加者の満足げな顔にリーダーもほっとした探鳥会だった。(田邊八州雄)

3月20日(火) 長瀬町 宝登山

参加：55名 天気：晴

トビ オオタカ ノスリ キジ キジバト コゲラ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アトリ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) (番外：ガビチョウ、ドバト) 肌寒いが好天に恵まれスタート。季節の遅れで早春の草花も寂しい限り。冬鳥が少ないことはわかっていたがツグミ以外はなかなか見つからず。しかし、アトリを見られた方々もいたのでホッとす。途中の展望所でノスリ2羽、山頂ロープウェイ駅ではオオタカ2羽を全員で見ることが出来た。皆さんお疲れ様でした。またどうぞ! (井上幹男)



●渡良瀬遊水地ラムサール条約に登録!

2012年7月3日から4日にかけて、うれしいニュースが繰り返し報道されました。国際的に重要な湿地を保全するラムサール条約に3日、広島県の宮島など日本の9ヵ所が新たに登録されたと、スイスにある条約事務局から環境省に連絡があったとのこと。その内の1ヵ所が渡良瀬遊水地です。日本野鳥の会栃木などが中心になり、当会も多くの皆さんのご協力をいただいた署名などで微力を尽くしてきた長年の運動が、実を結びました。今後は、新たな立場で、豊かな自然環境を保全する活動を続けなければなりません。



渡良瀬遊水地のチュウヒ

●会員の普及活動

5月26日(土)新ハイキングクラブ主催の探鳥会が北本自然観察公園で開催され、参加者17名に対し、小林みどり、浅見徹、吉原俊雄、吉原早苗が指導しました。

6月9日(土)さいたま市立浦和博物館主催の親子探鳥会が開催され、参加者9名に対し、楠見邦博、小菅靖、新部泰治、畠山孝が指導しました。

●ごめんなさいコーナー

6月号7ページ右段下から2項目目、「坂戸市西坂戸 ◇4月1日午前1時55分」は、「午前11時55分」の誤りでした。

7月号表紙上段、「平成24年6月1日発行」は、「7月1日発行」の誤りでした。

7月号7ページ、渡良瀬遊水地の探鳥会案内の集合場所「中央エントランス駐車場」は、「思い出橋駐車場」の誤りでした。中央エントランス駐車場にも人を手配して対応しました。

●会員数は

7月1日現在1,943人。

活動と予定

●6月の活動

6月9日(土)7月号校正(海老原美夫、大坂幸男、長嶋宏之、藤掛保司、山田義郎)。
6月17日(日)役員会(司会:長野誠治、各部の報告・24年度役員体制・総会資料点検・その他)。
6月18日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け7月号を発送(倉林宗太郎)。

●8月の予定

8月4日(土)編集部・普及部会。
8月11日(土)9月号校正(午後4時から)。
8月18日(土)袋づめの会(午後3時から)。
8月19日(日)役員会(午後4時から)。

編集後記

鳥、カヌー、インライン・ローラースケート、自転車と、10年ごとに熱中する対象が移ってきた。定年を過ぎ、幅広く興味のあることに時間を使えるようになって、ますます楽しくなってきた。あとは、体との相談だ。(森)
今月はまるで「訂正」と「ごめんなさい」の特集号のようになってしまった。注意力の持続にそろそろ問題が生じているようで、反省しきりの今日このごろ。上欄のM氏とは何歳違うのかな。(海)

しらこぼと 2012年8月号(第340号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社